

## 日本人とタイ人における自由行動下血圧および血圧変動性の比較研究

Differences in ambulatory blood pressure profiles between Japanese and Thai populations

富谷 奈穂子

自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門

**【目的】** アジアでは欧米に比較して脳卒中の発症率が高く、イベント発症への血圧寄与度はアジア人と欧米人には明らかな違いがあることが報告されている。これらの背景には、BMI増加に対する血圧反応性や食塩感受性が強い等のアジア特有の病態およびリスク因子の存在が予想される。しかし、アジア圏内でも文化、食生活、環境の違いにより、病態やリスク因子が異なる可能性があるが、その検討はほとんど行われていない。

**【方法】** 自治医科大学附属病院で2005～2015年の間に実施した合計1051件の自由行動下血圧測定(ABPM)データと、2015～2018年の間にタイ・マヒドール大学シリラート病院（バンコク）で実施した合計804件のABPMデータを比較する後ろ向き研究を実施した。

**【結果】** 両グループの診察室収縮期血圧（SBP）は同等であったが、24時間血圧プロファイルでは24時間平均、昼間平均、早朝平均SBPは日本人集団で有意に高値であり、夜間平均SBPはタイ人集団で有意に高値であった。また、血圧変動性に関しても両国間で差がみられ、モーニングサージの程度は日本人集団の方が著しく大きかった。夜間血圧降下度に関しては、タイでは日本に比較し、non-dipperおよびriser型が多いという特徴がみられた。

**【結論】** 日本人とタイ人集団を比較したところ、診察室血圧が同等であっても24時間血圧プロファイルに明確な違いがみられた。同じ人種であっても高血圧の特徴が異なる可能性が示唆された。